いぶやの社（もり）

第１０号
令和５年７月
揖夜神社
総代会

遷宮工事開始に向け樹木を伐採

令和五年秋から本殿屋根の葺き替えに向けた工事が着手されます。

その工事の事前準備として一月十六日から二十日にかけて神社本庁統理の承認を得て本殿周囲、境内の樹木が伐採されました。これは、葺き替え工事に伴う機材の搬入や設置並びに本殿や拝殿等への倒木・落雷といった防災上の観点から実施されたものです。

本殿屋根の葺き替え工事は令和六年秋に完工予定です。

祈年祭・福神祭

祈年祭・福神祭が四月十九日（水）午後三時より仮殿（神楽殿）にて斎行されました。

「**祈年祭**」とは農耕開始にあたって、その年の五穀豊穣を祈願する祭りで、「としごえのまつり」ともいいます。併せて大巳貴命（オオナムチノミコト）＝大国主神（オオクニヌシノカミ）に福縁を授かるようお祈りをする「**福神祭**」が斎行されました。

当日は、お祭りを祝福するかのように前夜までの雨が上がり、約１０００人の参拝がありました。拝殿の中では奉賛会による福引抽選会がおこなわれ、参拝者がくじを引くたびに歓声が上がり、また上位当選者がでると大きな拍手が起き賑やかなお祭りとなりました。

（参　進）

（宮司祝詞奏上）

平成６年５月３日正遷座祭のようす

いよいよ正遷座祭まで二年余りとなりました。前回の遷宮のようすをご紹介します。

揖夜神社宮司　井上英澄
御造営委員長　永島一郎
参向
　出雲国造
　　出雲大社宮司　千家尊祀
　出雲国造
　　北島家第79世　北島英孝
主な工事
　本殿屋根修復
　神楽殿新築
　社務所新築

（中市場地区の陸船の飾りつけ）

（千鳥町の龍の行列）

（西揖屋地区の傘踊り）

（東市場地区の七福神）

（大餅が飾られた撒餅台）

（祝い唄を唄いながら大餅奉納）

（餅撒きを待つ皆様で埋め尽くされた境内）

揖夜神社の歴史 そ

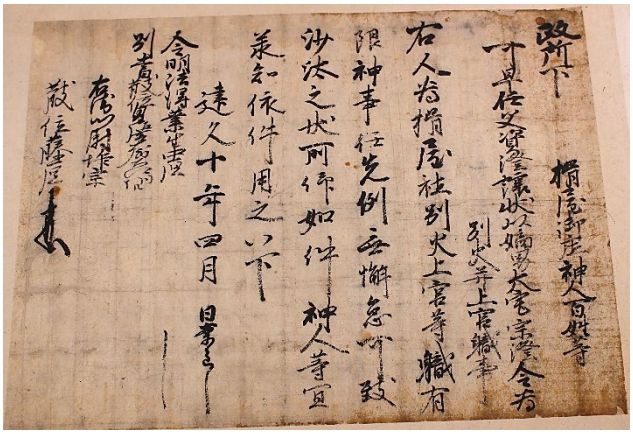
『井上家の家系』

揖夜神社宮司の井上家は、元々大宅氏を名乗りその始祖は不明ですが、大宅助宗（承安二年の古文書に記載あり）以来下記年表の通り八百年以上連綿と揖夜神社に奉仕しています。

当家は、神職継承の際は宮氏山（五反田）にある世襲井で「井神祭」を行い、その神水とその水で炊いた神供を神前に捧げる「世襲祭」を行います。これは古来より今に至るまで変わることなく続いています。

下記の文書は、揖夜神社の所有で意宇六社関係文書の中でも原本として残っている最古の古文書であり、三代資澄、四代宗澄の名前が確認出来る史料として注目されています。

鎌倉開幕間もない建久十年（一一九九）四月のこの文章は、二代将軍頼家の時、幕府の政所が別当・執権の副署（花押）の上「揖屋庄の神人百姓等」に下令した下文で、「父資澄の譲状にしたがって、嫡男大宅宗澄を別火および上官職に任ずる」ことを通達したものです。



政所下　揖屋御庄神人百姓等
可早任父資澄譲状　以嫡男大宅宗澄　令為
別火並上官職事
右人為揖屋社別火上官等職　有
限神事　任先例　無懈怠可致
沙汰之状　所仰如件　神人等宜
承知　依件用之　以下
建久十年四月　日案主
令　明法得業生中原
別當散位皇后大屬大江朝臣
右衛門尉惟宗
散位藤原（花押）

	平安時代	鎌倉時代	南北朝	室町時代	江戸時代	近代
井上家系図	初代 大宅助宗 二代 大宅助澄	三代 大宅資澄 四代 大宅宗澄 五代 大宅為澄	六代 大宅頼澄 七代 大宅綱澄	八代 大宅孝澄 九代 大宅秀澄 十代 大宅七郎次郎	十一代 大宅直澄 十二代 大宅直澄 **十三代** 井上主水 十四代 井上縫之丞 十五代 井上大貳 十六代 井上采女 十七代 井上政延 十八代 井上掃部 十九代 井上千里 二十代 井上升 二一代 井上讃岐 二二代 井上嘉都良 二三代 井上為若 二四代 井上良澄 二五代 井上英澄 二六代 井上眞澄	
和暦（西暦）記録等	・承安二年（1172）の最も古い古文書（大宅助澄の補任状）に助澄の父助宗と記載あり。 **・建久十年（1199）の政所下文に父資澄にかわって嫡男大宅宗澄を別火ならびに上官職に任ずると記載あり。**	・建保三年（1215）と寛元元年(1243)の補任状に記載あり ・暦応五年（1342）の下文に別火職に補任する記載あり ・正平十年（1355）の下文に別火職に補任する記載あり	永享六年（1437）安堵状 元亀三年（1572）七郎次郎父秀澄とあり 〃　別火職執達状	慶長一九年（1614）譲状 元和二年（1616）元和二年棟札、初名七兵衛のち直澄襲名 万治二年（1659）社領寄進状況。改姓井上。寛文八年棟札 享保十二年（1727）神社並棟札写差出帳に記名あり 明和五年（1768）六社社例書出に記名あり 宝暦十二年（1762）兄大貳より相続	天明九年（1789）相続 寛政十年（1798）の棟札に記載あり 文政十年（1827）と嘉永三年（1850）の棟札に記載あり 安政元年（1854）相続 明治元年7月没 明治二年（1869）四月 神主拝命 明治32年1月没 明治三二年（1899）五月 社司拝命 昭和33年12月没 昭和三四年（1959）一月 宮司拝命 昭和47年1月没 昭和四七年（1972）四月 宮司拝命 平成28年2月没 平成二八年（2016）四月 宮司拝命	

稲荷神社の鳥居

仮殿（神楽殿）右側、朱色の鳥居を上がると稲荷神社があります。参道には多くの鳥居がありましたが、長年の風雨で傷んだため全て撤去し、崇敬者の方々の寄進により新しい鳥居を二基建立し令和四年十二月四日祭典が斎行されました。

稲荷神社は五穀豊穣・商売繁盛・家内安全等ご利益のある神社です。是非お参りいただき「お稲荷さん」のご神徳をお受け下さい。

（崇敬者による鳥居建立祭典）

いざなみ会 黄泉比良坂散策

いざなみ会(樫原会長)は、黄泉比良坂の視察研修を五月二四日に行いました。附谷入口から古代の道を思わせる参道を歩き、賽の神を通り伊賦夜坂に到着し、会長のガイドで説明を受けました。

江戸時代の国学者「本居宣長（もとおりのりなが）」は、神名帳や齋明記を基に揖夜神社付近が黄泉比良坂であると古事記伝で言及しています。今では全国からの参拝も多く、平賀地区の方々が大切にお守りされています。

（大岩の前での参加者）

輪越祭（六月三十日）

輪越祭は、夏越（なごし）の大祓（おおはらえ）とも言い、半年間の罪穢れを祓い清め、これからの半年間の無病息災を祈る神事です。参拝者は、境内に作られた茅の輪を左から八の字（ひとがた）に三回くぐり、持参した人形を奉納しました。

この風習は、スサノオノミコトが、蘇民将来（そみんしょうらい）に「茅の輪を腰に着ければ疫病から逃れることができる」と伝えたという逸話がもとになっています。

穂掛祭のお知らせ

今年の穂掛祭・一ツ石神幸祭は、新型コロナウイルスが５類に移行したことから、例年通り各地区の陸船による提灯行列を行います。

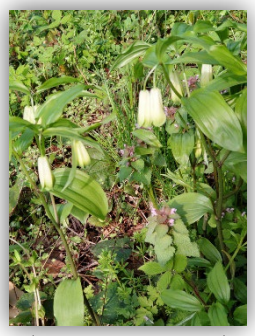
賑やかなお祭りにして町の元気を取り戻しましょう。

- 午後二時半頃　湯立神事
- 午後四時　祭典開始
- 午後五時　海上行列出発
- 午後五時半　一ツ石で神事
- 午後七時半　陸行列出発
- 午後九時頃　お神輿到着
- 奉賛花火の打ち上げ
- 舫の会の餅撒き

境内に咲く春の草花

（しだれ桜）

（ツバキ）


（ホウチャクソウ）

（ユキヤナギ）

（クサイチゴ）